

大崎市の復興に応援をいただいています

姉妹都市などの提携をしている東京都台東区、栃木県小山市から、復興のため応援をいただいている災害派遣職員の皆さんを紹介します。

東京都台東区から派遣された皆さん



石川 和代さん (写真前列左) 建設部建築住宅課
派遣期間：平成24年8月1日～9月30日

市民の皆さんが新しく建てる建物が長持ちする住宅か、地域のルールに合っているかななどを平面図で確認する仕事をさせていただきました。復興に少しでも役に立てたなら幸いです。

雪野 茂樹さん (写真後列左) 建設部建築住宅課
派遣期間：平成24年4月1日～7月31日

最初のうちは慣れない仕事と生活で緊張の連続だったことを懐かしく思い出します。震災がなければ経験することのなかった派遣生活では、希薄になりがちな人と人とのつながりの大切さを強く認識することができました。

高杉 孝治さん (写真前列中央) 建設部建設課
派遣期間：平成24年7月1日～9月30日

被災地である大崎市に足を踏み入れ、空気を肌で感じ人々とふれあい、自然災害の恐ろしさを思い知らされたと同時に、東北の人の力強さと温かさを実感しました。

福島 健二さん (写真後列右) 建設部建設課
派遣期間：平成24年4月1日～6月30日

被災した道路や橋などの数の多さ・規模の大きさを知り、改めて震災による被害に驚かされました。復旧業務に携わる市職員の皆さんの取り組む姿勢を見て感銘を受けました。

原島 悟さん (写真前列右) 建設部建設課
派遣期間：平成24年10月1日～12月31日

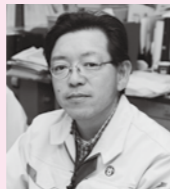
災害復旧という困難な職務にあたる大崎市の職員の皆さんと共に勤務し、さまざまな経験を積むことができました。また、大崎市の文化、風土の素晴らしさを知りました。皆さんありがとうございました。



佐藤 智一さん 建設部建築住宅課

派遣元：東京都台東区
派遣期間：平成24年10月1日～平成25年3月31日

早いもので東日本大震災が発生した3月11日から間もなく2年が経とうとしています。信じられないような震災からの復旧と復興の現実を私自身が多くの人に伝えていく必要性を改めて感じています。そして、一日でも早く震災前の市民生活を取り戻せるよう願っています。



霧見 真二さん 建設部建築住宅課

派遣元：栃木県小山市
派遣期間：平成24年10月1日～平成25年3月31日

教育関連施設の災害復旧工事の監理業務を行っています。地域の皆さんの温かい心や建築住宅課職員の適切な指導や助言により、建築の品質や性能確保のため新たな目線で施設の状況に応じた判断をし、日々奮闘しながら業務に取り組んでいます。



齋藤 秀明さん 建設部建設課

派遣元：東京都台東区
派遣期間：平成25年1月1日～平成25年3月31日

東京生まれの東京育ち、一人暮らしも初めてのため戸惑うことばかりですが、皆さんの温かいお気遣いをいただき職務に取り組んでいます。大崎市の米は弁当などでもとてもおいしく、空気と水がおいしい米を作っているのだろうと実感しました。



菅沼 勇人さん 建設部建築住宅課

派遣元：栃木県小山市
派遣期間：平成24年4月1日～平成24年9月30日

小山市でも東日本大震災による被害はありましたが、建物が倒壊するほどの被害はなかったため、大崎市の被害の大きさを実感しました。一部工事が終わるまで従事できなかった心残りはありませんが、今後も大崎市のために復興支援を続けていきたいと思っています。

硯が引き合わせ た奇跡の出来事

門間 里奈さん
中学三年生

沿岸地域へ

津波の被害に遭った知人の安否を知るため、家族で石巻市雄勝に行ったのは、あの東日本大震災の発生から十日後でした。

自衛隊ががれきをかき分け、応急的に作ってくれた一本の細い道を通っていた時のことです。車のタイヤに何かがひっかかりました。父と兄が動かそうとしたら、それはみかん箱ほどの大きな硯でした。

家族で話し合い「名前が彫られているからきつと返すことができると考え車に積んで家に帰りました。家に帰るなり、硯に彫られていた名前をインターネットで検索すると、石巻市雄勝の硯職人さんの名前だとわかりました。

偶然の情報

新聞などでその人の行方を調べて三カ月ほどたったある日、無事に家族と避難生活を送っていることを知り「確実にいつかは会える」と希望が持てました。硯のことを忘れないように、私の部屋の入り口に置いて連絡が取れる機会を待ちました。

あの名前はもしかして

東日本大震災から一年が過ぎた昨年四月、市の広報に硯に彫られていた名前と同じ「杉山澄夫さん」が紹介されていました。

記事には、津波で家、工房、今まで作った作品がすべて流され途方に暮れていましたが、二カ月後、やっと見つけた大崎市のアパートに夫婦で住むことになり、そこで、職人の技を絶やさないでほし



門間さんは、震災後に訪れた石巻市雄勝で、名前の彫られた硯を見つけました。硯が引き合わせた出会いについて語っていただきました。

いと、近所の人たちで杉山さんを支援する団体ができたといったことが書かれていました。**人と人の絆**

記事を読んだ後、杉山さんに連絡が取れ、会えることになりました。

あの大きな硯に出会ってから一年半後、笑顔の杉山さんご夫妻と団体の皆さんが私を迎えてくれました。硯を返すことができるうれしさと、硯と別れてしまいうれしさがありませんが、これまでのことを思い出し胸が熱くなりました。私たちは杉山さんから「絆」という言葉が彫られた雄勝石の桶をいただきました。皆さんと出会った証しとして、これからも「絆」という言葉を胸に刻んでいきたいと思っています。

毎月11日は「大崎市11 (いい) 音楽の日」です

大崎市立の小・中学校では、震災を通して感じたことを心に刻み、防災意識を高めることを目的に、東日本大震災が発生した3月11日と同じ毎月11日を「大崎市11 (いい) 音楽の日」としてさまざまな音楽活動に取り組んでいます。



昨年9月に古川中学校で開催された「安田智彦ビッグバンドコンサート」の様子